

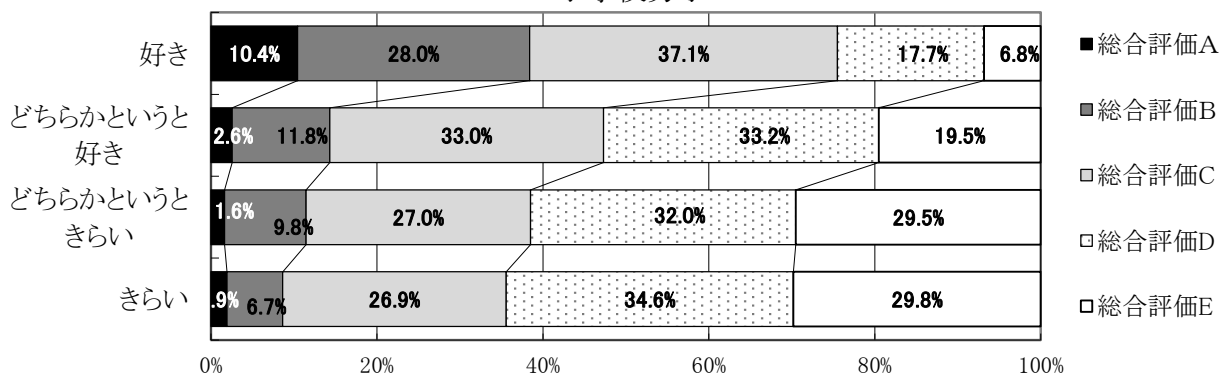
10 クロス集計

体力・生活調査各項目の関連

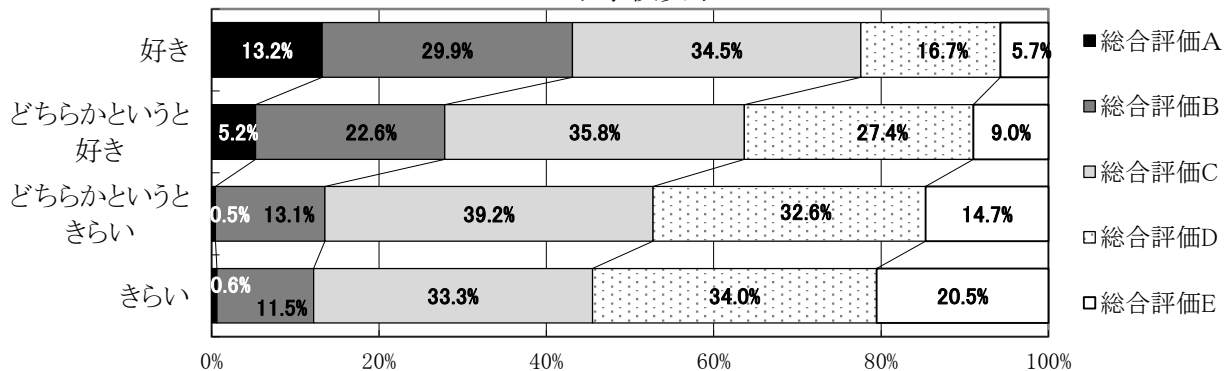
- 1 『運動意識』と『体力総合評価』の関連
- 2 『運動習慣』と『体力総合評価』の関連
- 3 『運動の実施時間』と『体力総合評価』の関連
- 4 『朝食摂取』と『運動頻度(学校の自由時間)』の関連
- 5 『朝食摂取』と『便通』の関連
- 6 『就寝時刻(平日)』と『朝食摂取』の関連
- 7 『テレビ視聴・ゲーム実施時間』と『就寝時刻(平日)』の関連
- 8 『1ヶ月の読書冊数』と『テレビ視聴・ゲーム実施時間』の関連
- 9 『1ヶ月の読書冊数』と『家庭での読書の勧め』の関連

1 『運動意識』と『体力総合評価』の関連

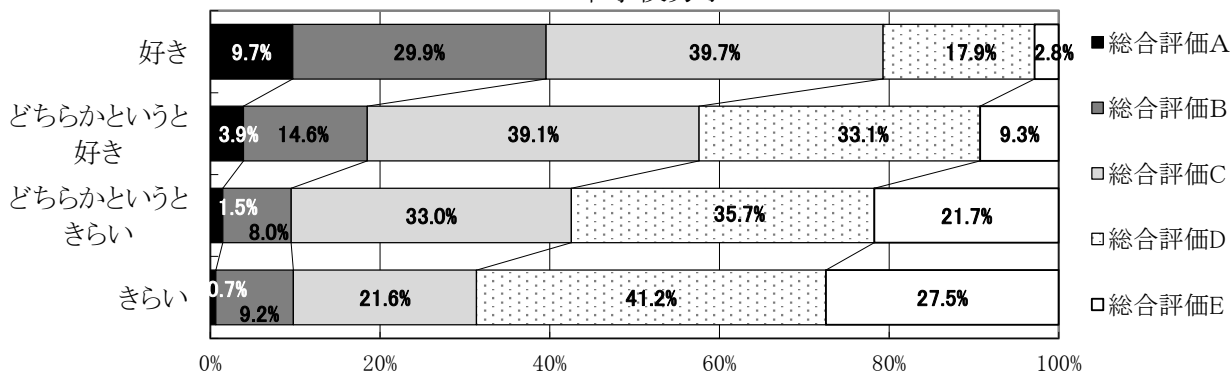
小学校男子



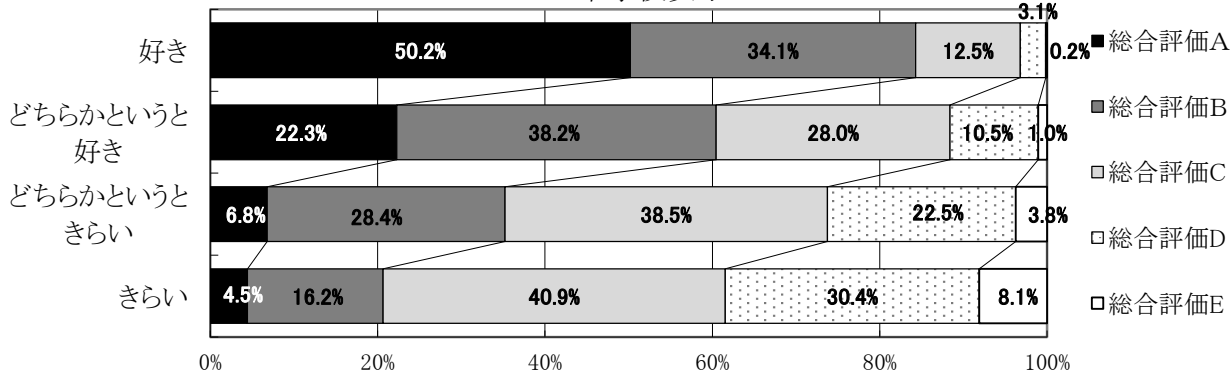
小学校女子



中学校男子

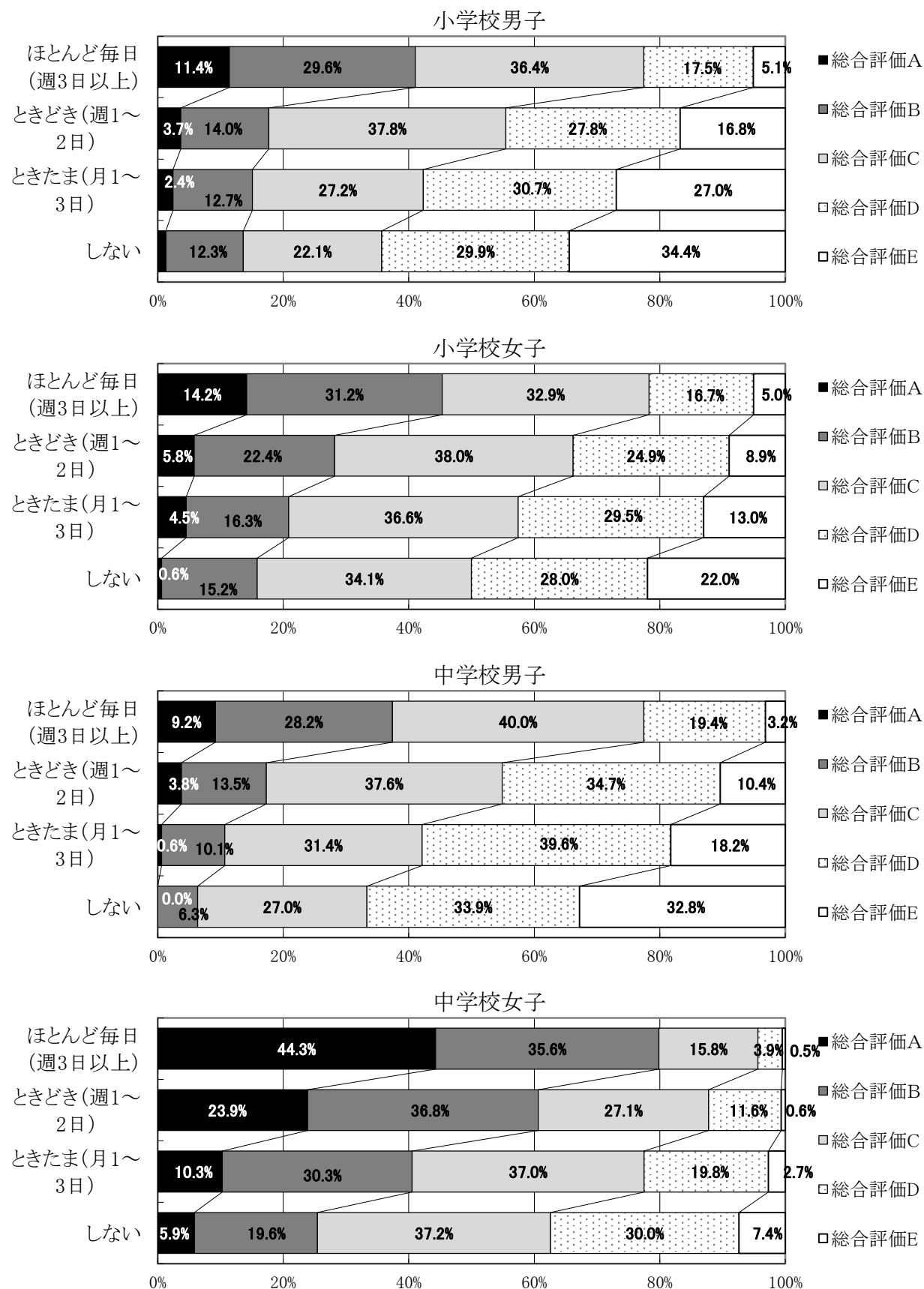


中学校女子



小・中学生ともに、運動が好きな児童生徒は、体力総合評価が高い傾向にある。

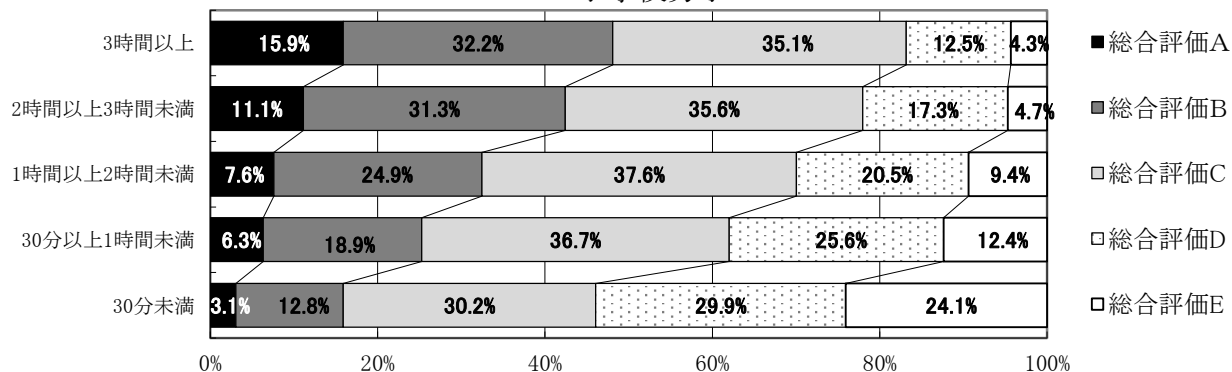
2 『運動習慣』 と 『体力総合評価』 の関連



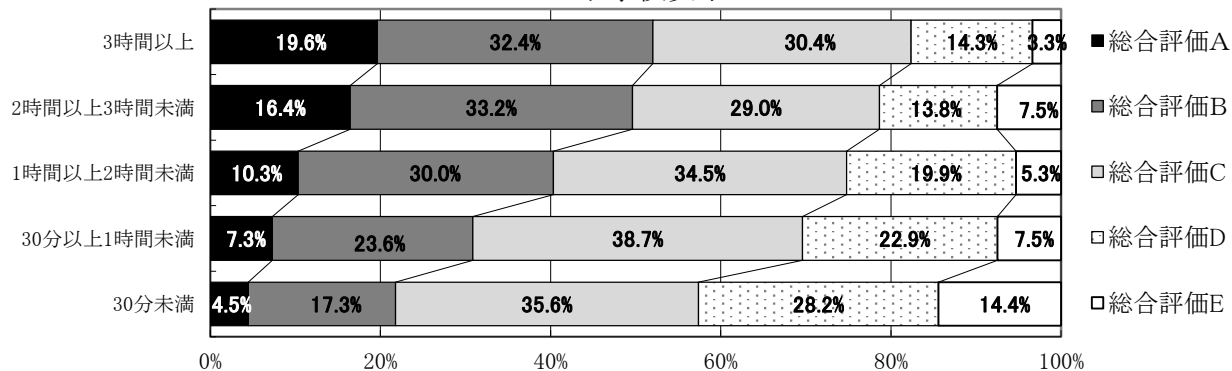
小・中学生ともに、運動頻度の高い児童生徒は、体力総合評価が高い傾向にある。特に中学校女子は顕著である。「ほとんど毎日(週3日以上)運動をしている」と回答した児童生徒では、総合評価C以上の割合が、中学校女子は約96%程度、小学校男子、女子、中学校男子で約8割程度である。

3 『運動の実施時間』 と 『体力総合評価』 の関連

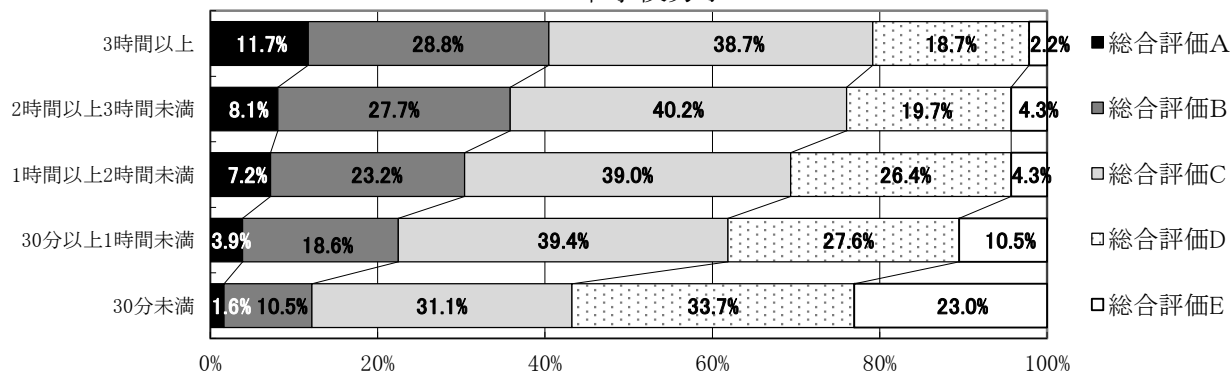
小学校男子



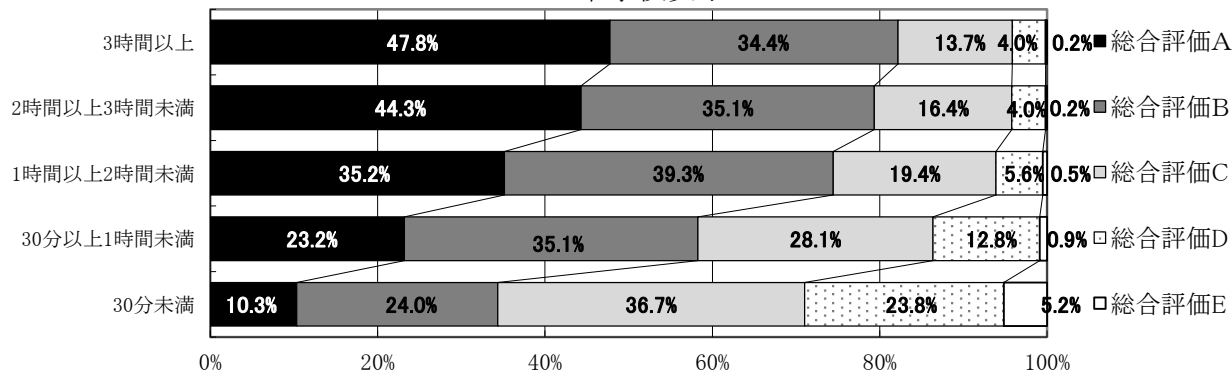
小学校女子



中学校男子



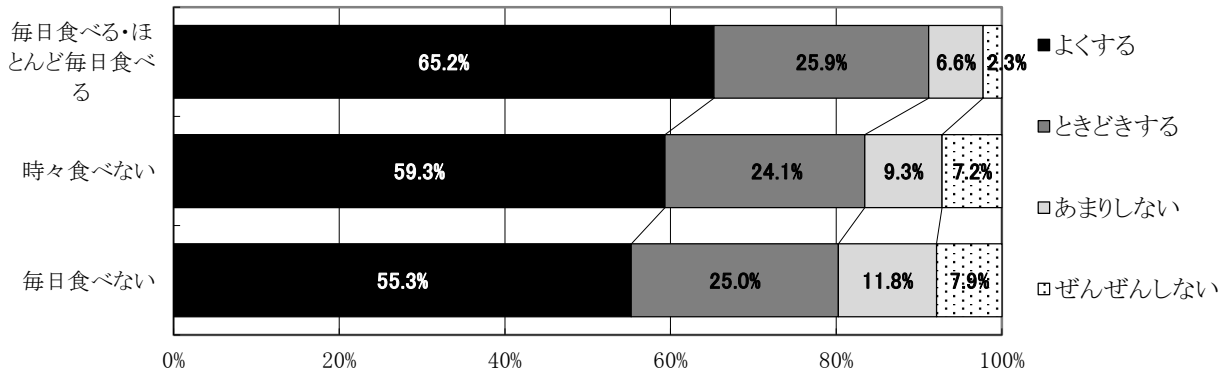
中学校女子



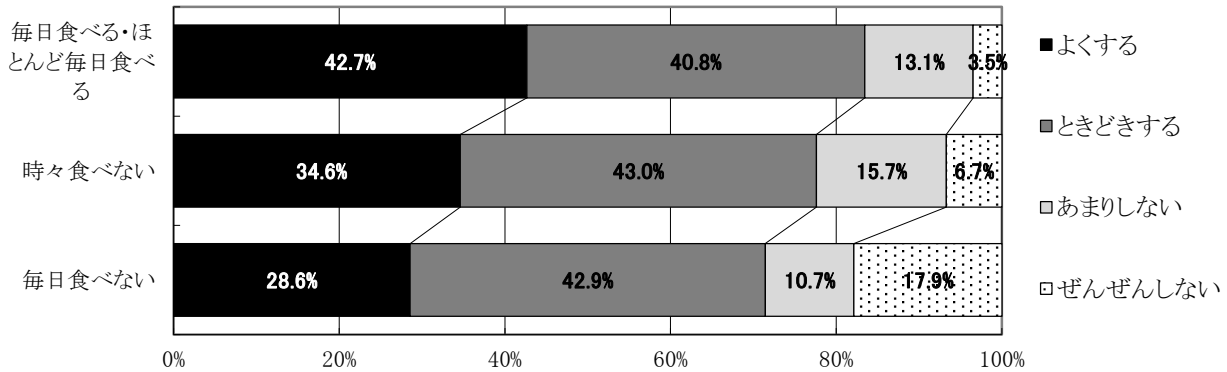
小・中学生ともに1日の運動時間が長い児童生徒は、体力総合評価が高い傾向にある。「1時間以上運動をする」と回答した児童生徒は、総合評価C以上の割合が中学校女子が約9割以上、小学校男子、女子、中学校男子で約7割以上である。

4 『朝食摂取』と『運動頻度(学校の自由時間)』の関連

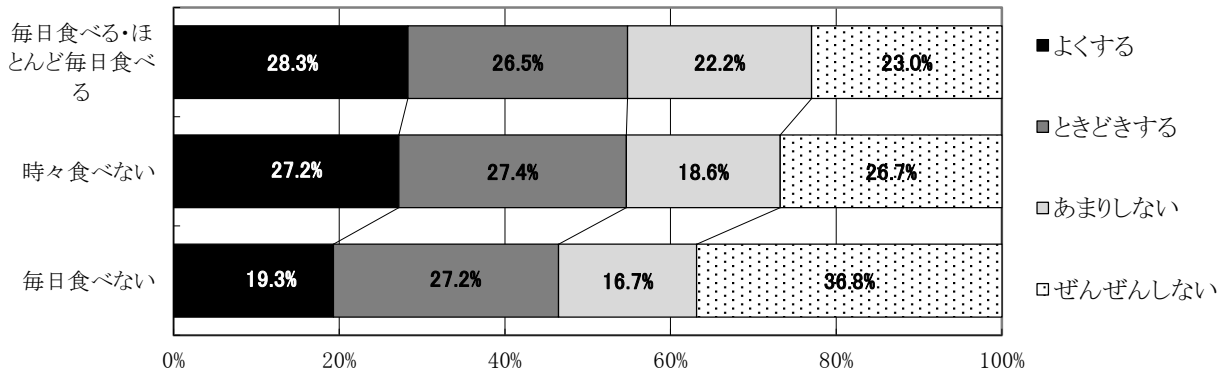
小学校男子



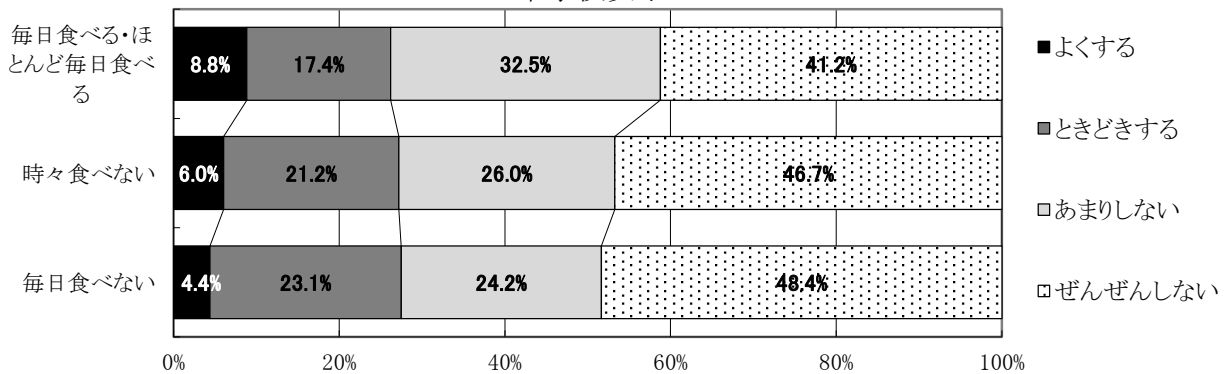
小学校女子



中学校男子

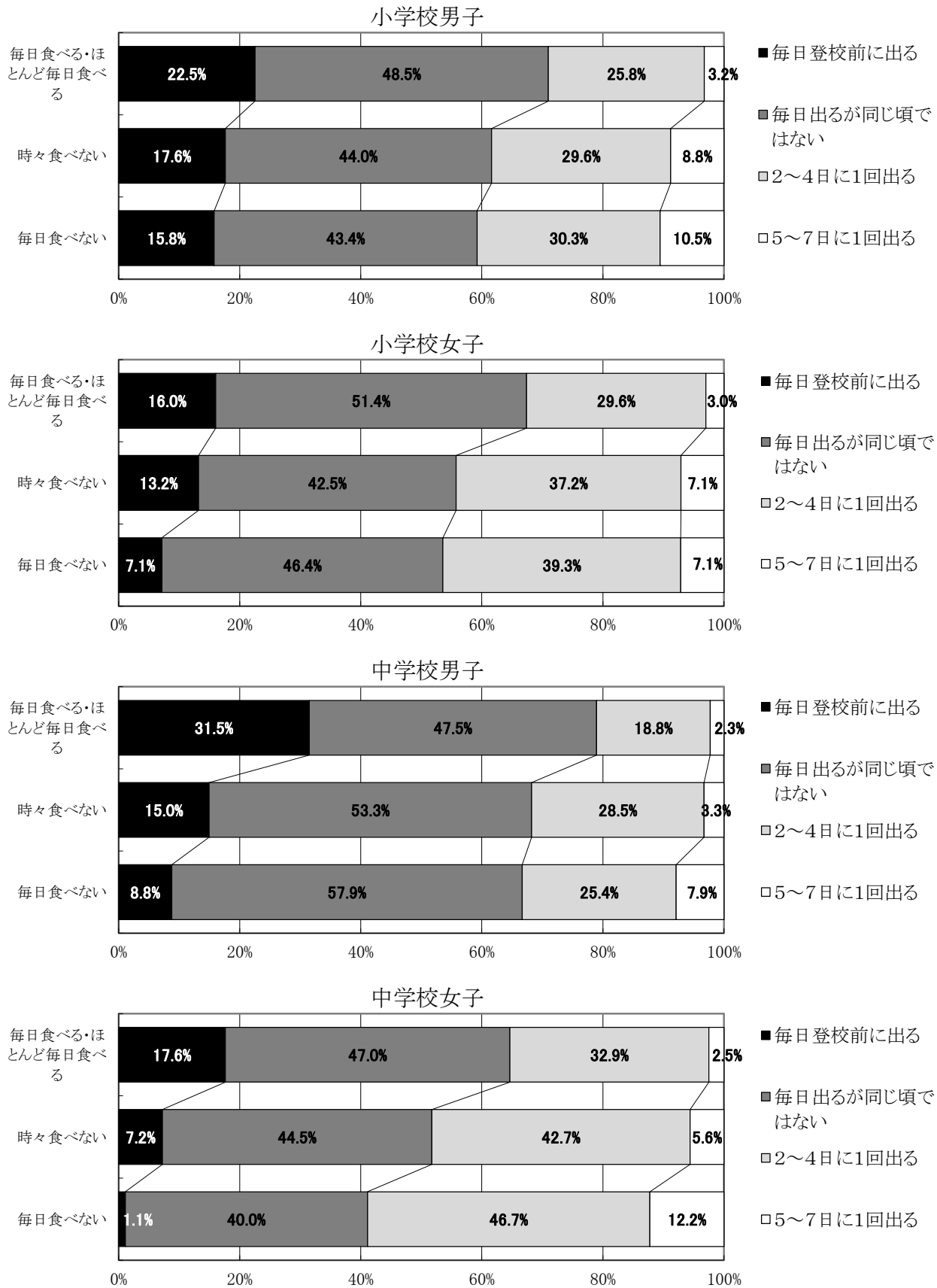


中学校女子



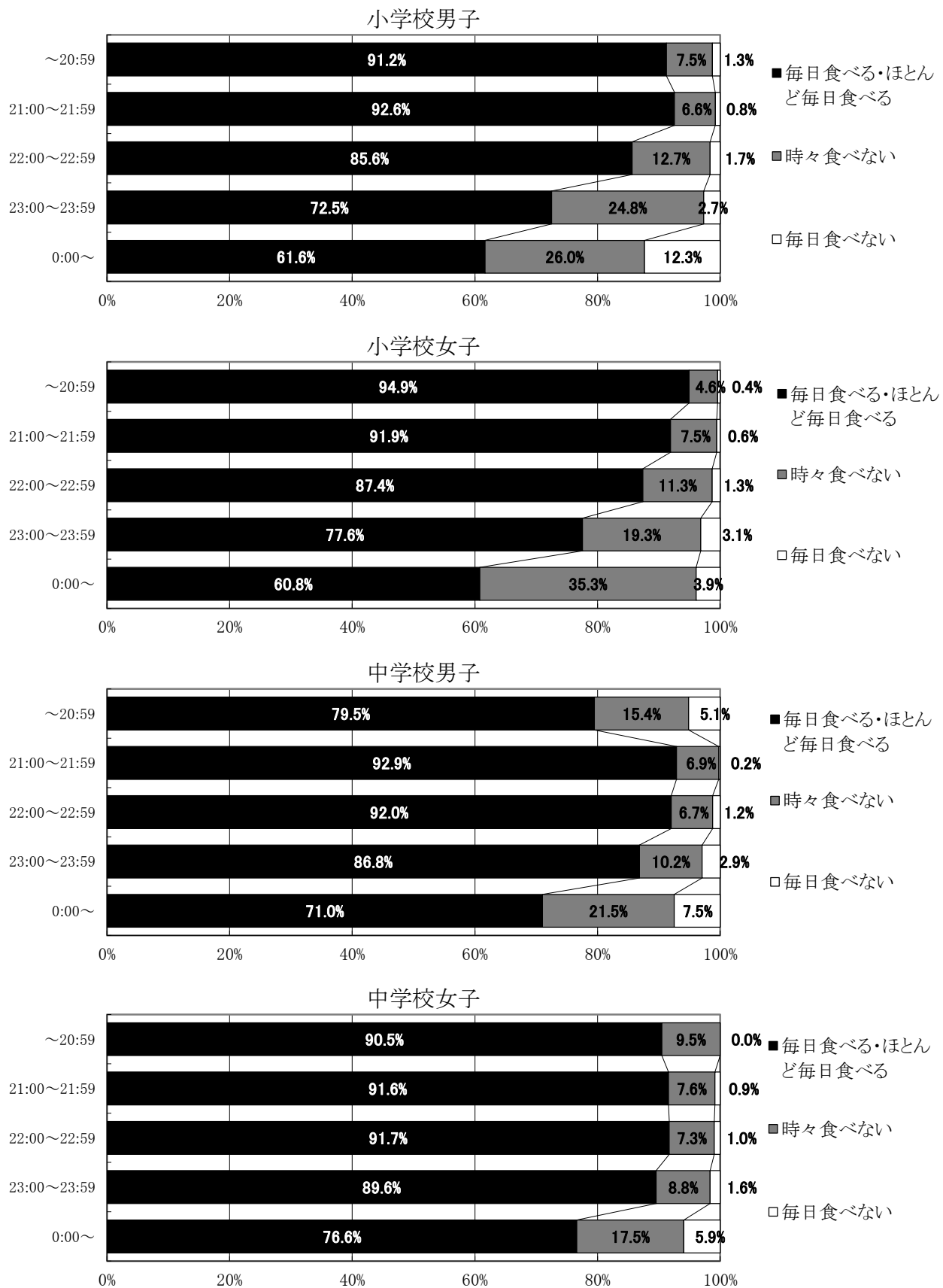
小・中学生ともに、朝食の摂取状況がよい児童生徒は、運動をよくする児童生徒の割合が大きい傾向にある。

5 『朝食摂取』と『便通』の関連



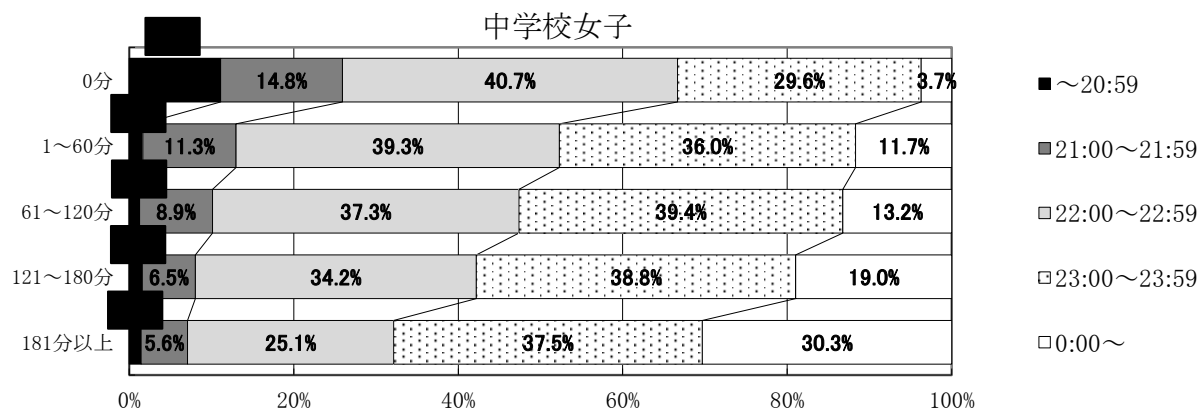
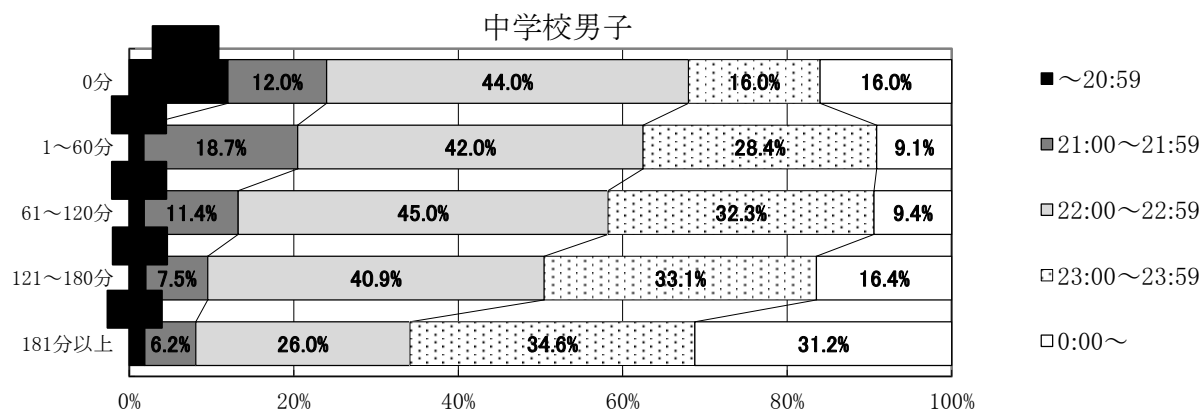
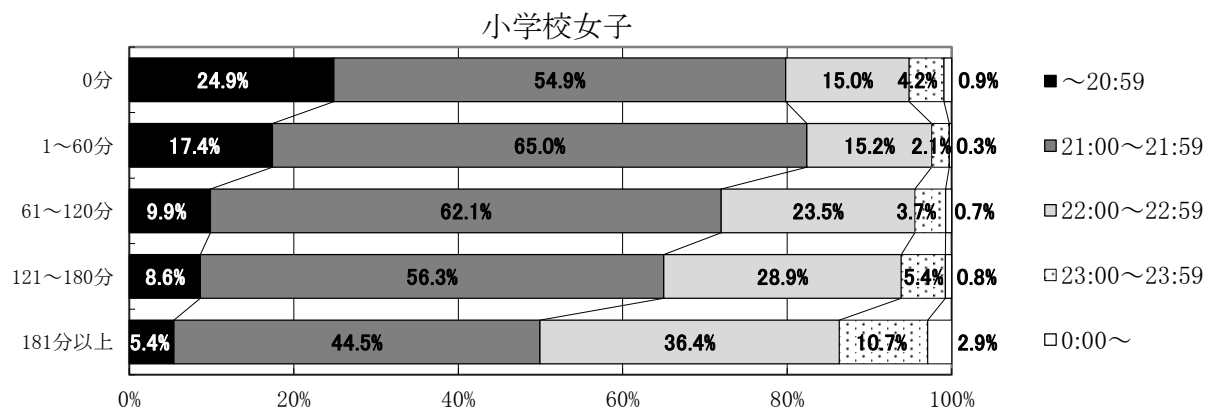
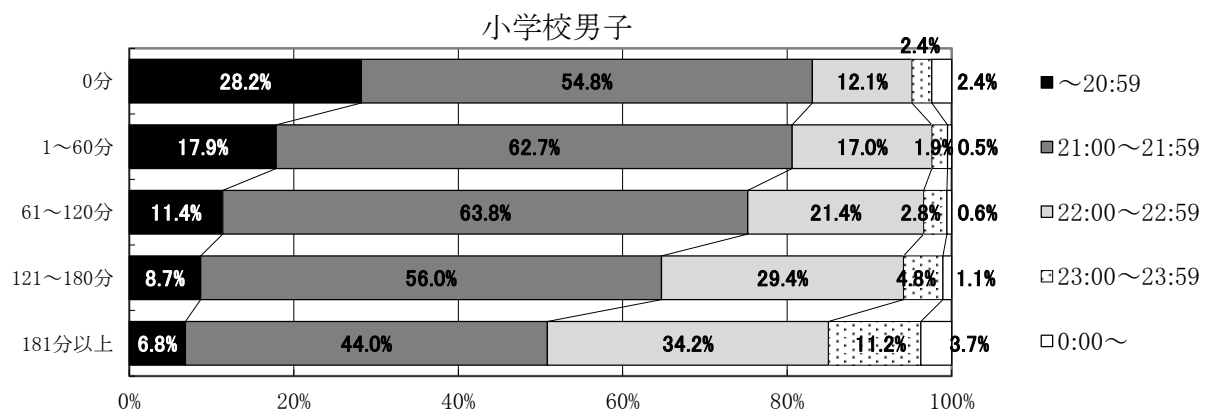
朝食を「毎日食べる・ほとんど毎日食べる」児童生徒は、「時々食べない・毎日食べない」児童生徒に比べ、便通のリズムがよい傾向にある。

6 『就寝時刻(平日)』と『朝食摂取』の関連



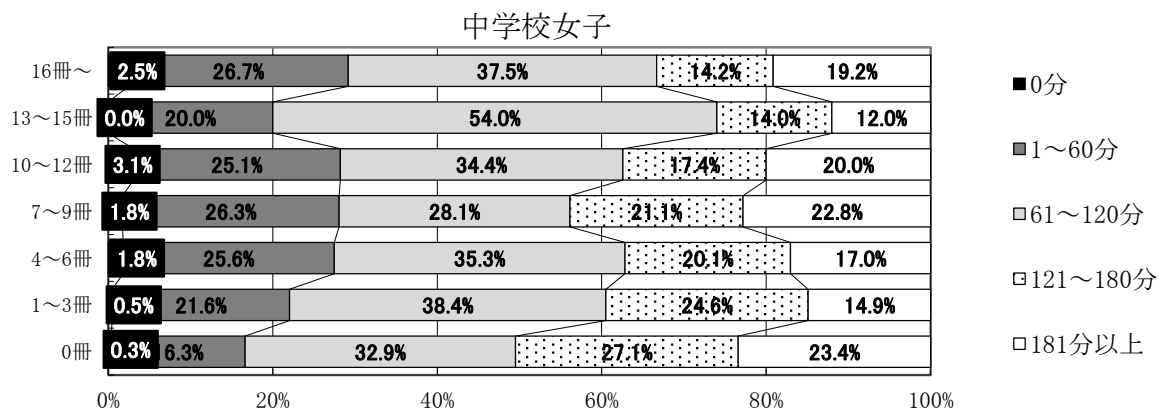
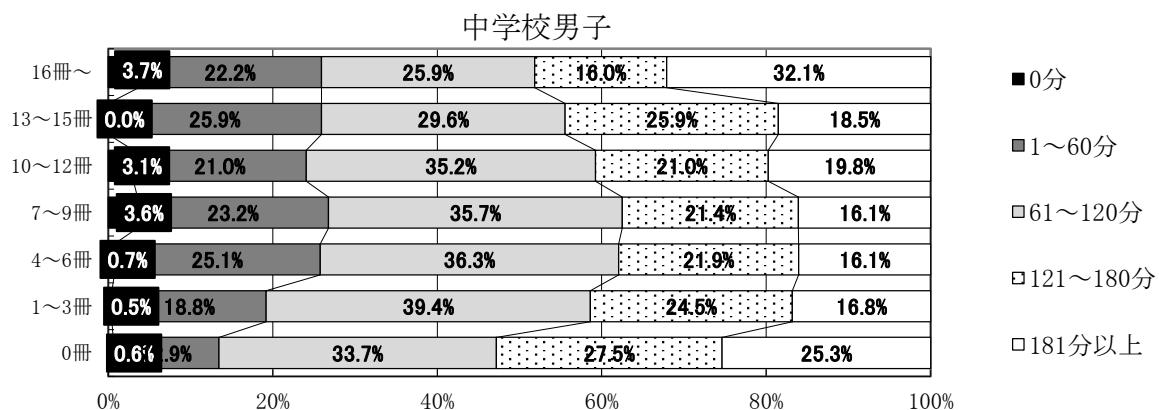
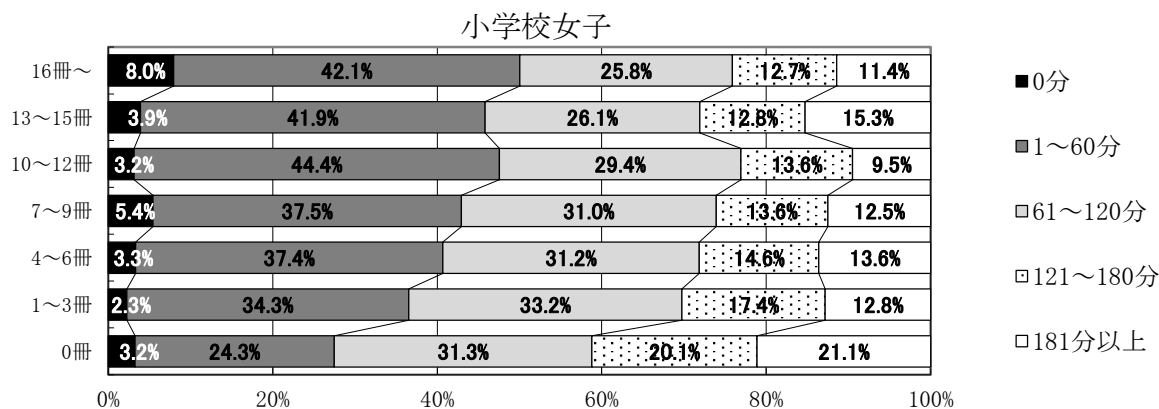
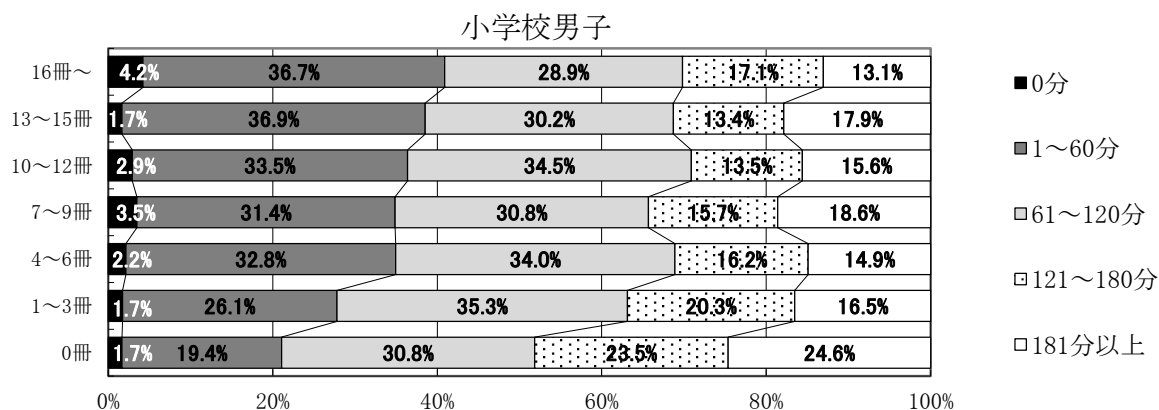
小学生では、就寝時間が早い児童は、朝食を「毎日食べる・ほとんど毎日食べる」割合が大きい傾向にある。また、就寝時刻が0時以降の児童生徒は、「朝食を毎日食べる・ほとんど毎日食べる」割合が特に小さくなる。

7 『テレビ視聴・ゲーム実施時間』と『就寝時刻(平日)』の関連



小・中学生ともに、テレビの視聴時間やゲーム実施時間が長い児童生徒は、就寝時刻が遅くなる傾向がある。特に「181分以上」の児童生徒の就寝時刻は、小学生では「22時以降」の割合が約5割以上になり、中学生では「23時以降」の割合が男女ともに6割以上になっている。

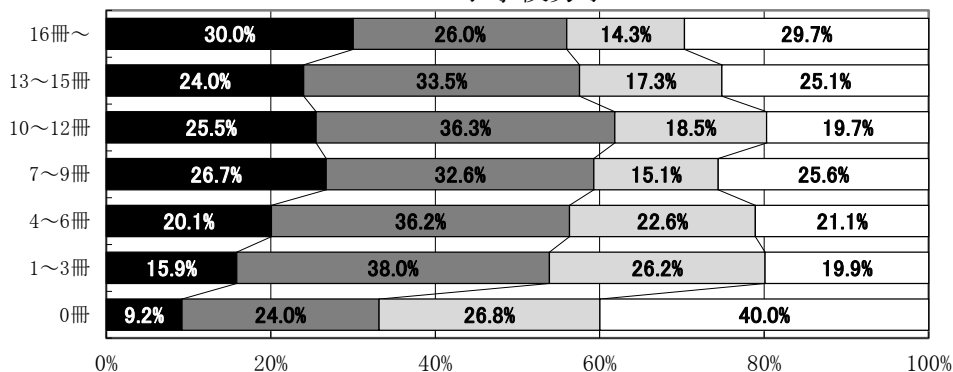
8 『1ヶ月の読書冊数』と『テレビ視聴・ゲーム実施時間』の関連



小学生では、読書冊数の少ない児童はテレビ視聴時間やゲームの実施時間が長い傾向にある。中学校では、読書冊数が0冊の生徒は、テレビ視聴時間やゲームの実施時間が2時間以上の割合が他の読書冊数に比べ、大きくなっている。

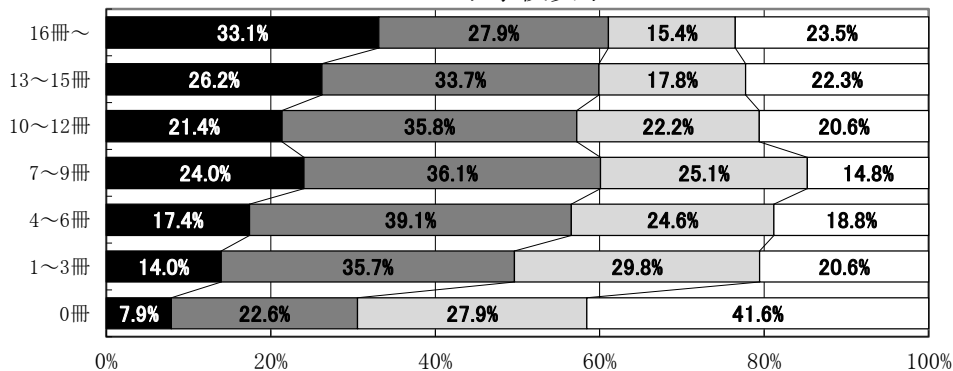
9 『1ヶ月の読書冊数』と『家庭での読書の勧め』の関連

小学校男子



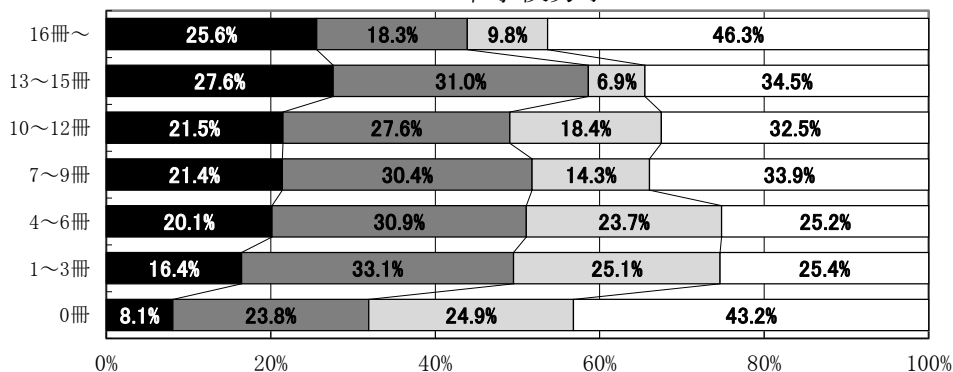
- よく勧められる
- 時々勧められる
- あまり勧められない
- 全く勧められない

小学校女子



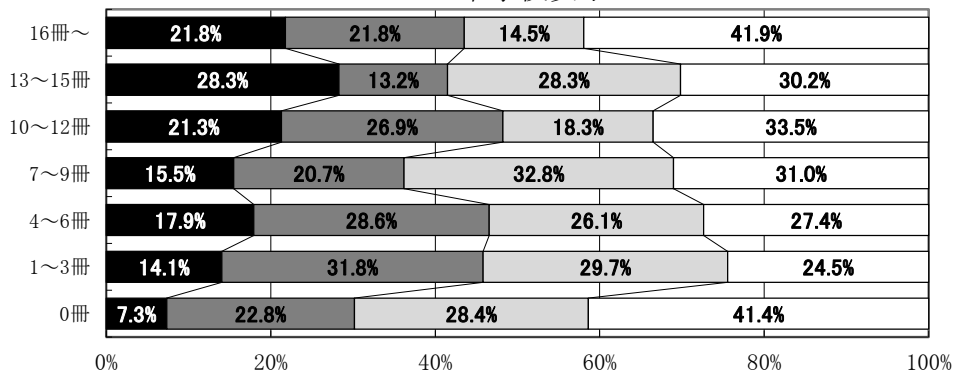
- よく勧められる
- 時々勧められる
- あまり勧められない
- 全く勧められない

中学校男子



- よく勧められる
- 時々勧められる
- あまり勧められない
- 全く勧められない

中学校女子



- よく勧められる
- 時々勧められる
- あまり勧められない
- 全く勧められない

小・中学生ともに読書冊数が0冊の児童生徒は、家庭で「読書をあまり勧められない」及び「全く勧められない」と回答した割合が、1冊以上読書している児童生徒に比べて特に大きくなっている。